

業務部速報



No. 150

発行 20. 6. 17

JR東労組 業務部

バス関申11号第3回交渉での議論の特徴点

回答に対して

- (組合) 昨年の実績からは大きな下げ幅になった。この根拠について明らかにしていただきたい。
- (会社) 昨年度の実績は 2 億 600 万円と、みなさんの尽力によって黒字だった。きちんと評価してきた。団体交渉の場でも議論してきたが、3 月以降の新型コロナウイルスの影響が甚大である。会社の体力を鑑みつつ、また雇用を守ることを優先順位としてこのような回答をした。
- (組合) 業績動向をどう見ているのか。
- (会社) 今年度は 4 月の緊急事態宣言の発令以降、相次ぐ高速線の減便によって、高速収入は過去にも例のない激減になった。経験したことのない状況だった。経営見通しについても、大変厳しい見立てをしている。
- (組合) 組合員からは、この間積み立あげてきた剰余金（内部留保）、賞与引当金についてを活用すべきとの声がある。
- (会社) 賞与引当金は積み立てている。雇用・給与を 100%支給するためにキャッシュとして使っている。雇用を守るために活用している。
- ＜業績に反映しない努力について＞**
- (組合) 業績に反映しない努力はどのように報いているのか。
- (会社) 2.2 ヶ月のうちの 0.1 ヶ月は、新型コロナウイルスへの不安と緊張の中でも、社会的使命を果たし続けていることへ、尽力に酬いることと、今後への期待である。

現行、基本給・都市手当・扶養手当・職務手当・技能手当の支給は維持していくとしています！

新型コロナウイルス感染症対応に対する特別手当について

- (組合) 要求の趣旨は、危険手当、防疫手当が制度上ないことに対しての要求であった。そこについては今回対応しないのか。
- (会社) 今回は、一時金の中で尽力に酬いてというスタンスで回答している。

再度会社に訴える！

- (組合) この間、つくばエクスプレスの開通、自然災害等で何度も危機的な状況を経験してきた。その度に社員が一丸となり困難を乗り越えて、安定した営業利益を出せる会社となった。新型コロナウイルスの影響で世界的に大きな損害を受けて、この先も油断できない深刻な状況も理解している。社長メッセージの中で、不測の事態に備えて蓄えをしてきて、今財源を使って有効的に社員の雇用を守っていくとのメッセージに勇気づけられた社員もいる。職場では、業務量減少や給料が減ってしまう現実をしっかりと受け止めて、仕事をしている。しかし、生活を安定的に維持するためには基本給の支給だけでは成り立たない。手当に関しては期間の業績が反映されることを考えれば回答の金額は低い。これまでの蓄えを活用しても、先輩方のようにこれから蓄えていくことが可能である。その力を会社・社員は持っている。
- (会社) 貴側の認識を深く認識したい。つくばエクスプレスの開通で 2 年連続の赤字、自然災害などの危機を迎えながら、黒字基調に至った。2019 年度は 3 月の新型コロナウイルスの以前は、連続した台風に対して、尽力いただいたことや、その他の場面も評価をしている。その結果、黒字基調になった。その努力の蓄えを今使わせていただいている。これを後世に伝え、会社の財産を残さなければいけない。そこについては、貴側と我々もそのような会社になりたいという認識は深く共有したい。まだ、収束したわけではないが、第 1 波の教訓を踏まえ、できる議論は行っていく。

組合員・家族と共に困難を乗り越えて行こう！